

(6) 附属図書館における展示会活動の企画と実施

人文社会科学研究科 大塚秀明

附属図書館協力者 篠塚富士男, 福井啓介, 村尾真由子, 徳田聖子

福島裕子, 落合厚子, 中山知士, 峯岸由美, 浅野ゆう子

1. はじめに - 二つの特別展の開催の経緯

平成20年度は中央図書館耐震改修工事の影響で実施できなかった図書館の展示会活動であるが、改修工事の進展にともない平成21年度には貴重書展示室の使用も可能となったので場所的な問題はなくなり、条件としては従来と同様の形で展示会を開催することができるようになった。

一方、展示の企画については、平成21年3月までに以下の2つの提案があった。

(1) 東照宮のまつりと日光社参 (仮題)

人文社会科学研究科 歴史・人類学専攻 (山澤学先生) からの提案

(2) 筑波大学附属図書館所蔵 連歌俳諧貴重書展

人文社会科学研究科 文芸・言語専攻 (清登典子先生) および

図書館情報メディア研究科 図書館情報メディア専攻 (綿抜豊昭先生) からの提案

このうち(1)は耐震改修工事前から検討されてきた企画であり、展示会開催が可能となったら、例年通り学園祭が開催される10月に従来の方法に準じて約1ヵ月間開催する、という形で予定していたものである。また(2)は学会(俳文学会)の本学開催との連動企画ということで前年に申し入れがあったものであるが、学会開催が平成21年10月であるのでそれにあわせて関係する貴重書を展示したい、ということであった。こちらは、平成20年夏以前の段階では、改修工事の進捗状況に未定の部分があったので、中央図書館以外での展示の可能性も考慮しながら調整していたが、平成21年夏以降に貴重書展示室の使用が可能となる見込みが立ったため、中央図書館での開催を前提として提案を受領したものである。この展示会は学会連動企画という性格が強いため、開催希望期間が(1)の開催予定期間と重なる部分があったが、会期は学会開催期間を含む1週間～2週間程度、図録も不要という希望での申し入れであったので、図書館においてこうした条件による展示会開催に必要な作業量等を検討した結果、(1)の会期中に併催する形での開催が可能という見通しが得られた。

こうした経緯により、平成21年10月に2つの特別展を開催することとなった。図書館では平成7(1995)年度以降、平成20年度を唯一の例外として毎年特別展・企画展を開催してきたが、同一年度に特別展を二回開催するのは平成8年度以来二度目のことであった。しかし、今回は2週間ほど双方の会期が重なっている時期があり、同じ会期中に二つの特別展を同時開催するのは初めての試みであった。

2. 企画と実施

2.1 特別展「日光 描かれたご威光 - 東照宮のまつりと将軍の社参 -」

「東照宮のまつりと日光社参 (仮題)」として開催が決定した特別展は、企画を担当された山澤先生との打合せを経て、「日光 描かれたご威光 - 東照宮のまつりと将軍の社参 -」という名称で開催することとなった。本特別展の会期等は以下のとおりである。

○ 特別展「日光 描かれたご威光 - 東照宮のまつりと将軍の社参 -」

1. 会場 筑波大学附属図書館 (中央図書館新館1階 貴重書展示室)

2. 会 期 平成21年10月5日（月）～10月30日（金）

*土・日・祝日も開室するが、10月17日（土）～18日（日）は全学停電のため閉室。
学園祭（雙峰祭）は10月10日（土）～10月12日（月）。

3. 共催組織 人文社会科学研究科 歴史・人類学専攻

この特別展は、江戸幕府第12代将軍徳川家慶が、天保14年（1843）4月に日光に参詣した際に作成された絵図を中心として構成されており、「描かれたご威光」という視点を設定して、東照宮や将軍・幕府の威光を多様な記録・絵図等によって見ていこう、というテーマによって企画された。将軍の日光への参詣は「日光社参」と呼ばれているが、展示の中心となった「日光御参詣警固絵図」18舗は、天保の日光社参の際に将軍家慶を警固した百人組の配置・進行の計画を描いたものである。現代でも公式の行事の折りに重要人物を警備するための警備計画が立てられるが、この一連の絵図群は、江戸時代における将軍警備計画図であり、大変珍しいものといえよう。この他に「日光山御祭礼絵図」、「日光山名跡誌」、「日光山行記」等の貴重な資料を展示し、また学園祭期間中の10月11日（日）に山澤先生による特別講演会「日光 描かれたご威光」を実施した。

展示会場への案内表示



展示会場風景



将軍家慶 日光社参の道 : 図録より引用



本特別展は、山澤先生の企画立案のもと、館内職員9名によるワーキンググループ（本プロジェクトの附属図書館協力者）が山澤先生とともに実施にあたる体制で行った。研究開発室のプロジェクトの一つとして展示会を行うのは、平成18年度・19年度に続き三回目になるが、いずれもこうした形で実施しており、当館における特別展・企画展開催のスタイルとして定着していると言えよう。

このWGは、例年通りポスター・図録のデザイン、図録の版下作成、実際の展示作業、特別展のページや電子展示の作成等の様々な作業を行ったが、研究開発室のプロジェクトでもあるので、電子展示関係を中心に¹、いろいろと実験的な試みを行うことを目指した。今回実施した主な試みは以下のとおりである。

- ①展示会ブログの開設
- ②Google マップを利用した展示資料の説明と社参ルートの表示
- ③積文付き画像の公開
- ④「今日のお目見え」（「日光山御祭礼絵図」）に描かれている人物等を日替わりで紹介
- ⑤講演会の様子を初めてYouTubeで公開²

②Google マップ



④「今日のお目見え」



③積文付き画像の公開



このうち、①のブログは、観覧者・電子展示利用者等の疑問や要望にただちに答えることができるという即時性・双方向性を持っている。そうした特徴から、展示WGと利用者の双方向のコミュニケーション・ツールとして機能させることを目的の一つとして、平成18年度・平成19年度の展示会でも開設し利用者からも好評を得た。こうした経験から今回も展示会ブログを開設したが、展示会のように目的がはっきりとし期間も限定されているようなイベント・プロジェクトにおいては、更新を適切にきちんと行うことさえできれば、ブログは広報・コミュニケーションのツールとして非常に有効であることを改めて確認できたので、今後の展示会においても基本的にブログを開設することとしたい。また、ブログの記事で、展示内容を補完する試

みを実行できることを改めて確認できた³のも今回の収穫だった。

②以下は今回初めて実施したものである。

②, ③, ④は、日光社参図を中心とする展示会であるという特性を踏まえて、社参ルート（地図上での）視覚化としてのGoogle マップの利用、くずし字で書かれた記述を読みやすくするための一種の画像加工、長すぎて全体を展示できない資料に描かれている画像の日替わりによる紹介と解説、といった試みを行った。これらは電子展示の方法の工夫にあたるものであるが、電子展示は必ずしも特別展観覧のために来館できない方だけを対象としているわけではない。たとえば④は、数メートルもの長さがある資料の全体を紹介するための工夫である。この資料は、実際の展示でも一部分しか開くことができない（展示できない）し、図録にも資料全体（全画像）は収録できない。過去の展示会においても、こうした資料の紹介の方法は悩みのたねだったが、④のような方法をとれば資料全体を紹介できる上に、会期中毎日新しい画像を追加していくことで、特別展のページへのリピーターを得ることも期待できる。特別展のページを定期的に見ていただけると、会期中に発生したいろいろなお知らせ等の情報の更新もすぐにわかるので、広報戦略上、リピーターを確保できることの意味は大きい。展示そのものと電子展示の内容は同一のものではないので、来館者であっても電子展示を見ていただくことで、特別展の内容が理解しやすくなる／深まることを意図している。

また、山澤先生のご理解・ご協力を得て⑤を行ったが、本学の組織が公式にYouTubeを利用するのはこれが初めてであった。こちらは講演会に関心がありながらも都合で会場に来られない方々からの要望に応えるものであると同時に、図書館の立場からすると動画による講演会の記録を残す方策として貴重な試みとなった。

本特別展の来場者は1,334人だったが、ブログや電子展示、YouTubeの動画等をご覧になった方を考えると、来館して観覧された方以外にも数多くの方にアクセスしていただいていることになり、従来から行ってきた電子展示の方向性を一層拡大したものと言えよう。

2.2 筑波大学附属図書館所蔵 連歌俳諧貴重書展

前述のように、こちらは学会連動企画という性格が強いが、本特別展の会期等は以下のとおりである。

○ 特別展「筑波大学附属図書館所蔵 連歌俳諧貴重書展」

1. 会場 筑波大学附属図書館（中央図書館新館1階 和装本閲覧室）
2. 会期 平成21年10月19日（月）～10月30日（金）
*土・日も開室する。なお俳文学会は10月24日（土）～10月25日（日）に開催される。
3. 共催組織 人文社会科学研究科
4. 特別展の内容・企画
 - ・本学での俳文学会開催との連動企画である。
 - ・ポスター・図録は作成せず、簡単な展示品リストを作成する。

和装本閲覧室は貴重書展示室にごく近いところにある上に、同時期の開催だったので、日光の特別展の第二会場と思って入室される観覧者も見受けられたが、内容的にはまったく別の特別展である。俳文学会開催期間中は全国から専門家が集まるので、企画を担当された綿抜先生の意向もあって、出展物は全点貴重書とし、いわば展示資料そのものをじっくりと見ていただくスタイルをとった。そのため観覧者として高校生程度を想定した日光の特別展とはまた違った趣の展示会となった。

特別展が二つ重なったこともあって、こちらは図録は作成せず、キャプションと展示品リストの作成にとどめ、日光の特別展で行ったような実験的な試みも行わなかったが、学会開催期間中に何度も来館されてご

覧になる他大学等の研究者も多く⁴、貴重書の持つ力・魅力を改めて確認できた特別展となった。そうした点でも、同時期にまったく傾向の違う特別展を2つ開催できたことは、本プロジェクトにとっても、図書館にとっても、非常にいい経験となった。

会場入口



賦何人連歌：慶長廿年三月吉日



¹ <http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/exhibition/nikkoshasan/index.html>
<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/exhibition/nikkoshasan/exbn/>

² <http://www.youtube.com/user/UnivTsukubaLibrary>
<http://www.youtube.com/watch?v=JxjHPESZrxs>

³ たとえば、宇都宮～日光間を1日で歩いたという社参の記述にしたがって、WGのメンバーの一人が実際に宇都宮～日光間を踏破した記録をブログで報告したが、展示内容を身近に感じられるという意味で効果的だった。

<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/exhibition/blog/index.php?eid=42>

また、日光で行われている秋の東照宮千人行列の様子を、山澤先生が多数の写真とともに紹介してくださったが、「日光山祭礼絵図」に描かれた「今日のお目見え」の画像と、現在の千人行列の装束との対比も行われており、これも展示内容を補完するものであった。

<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/exhibition/blog/index.php?day=20091029>

⁴ 当然のことながら日光の特別展もあわせてご覧になる研究者も多く、会場で配布している図録に対する賞賛の声もいただいた。また、過去の特別展・企画展の図録も入手したいというご要望もあったが、これは図書館の蔵書、および展示会の企画と内容の双方が、きわめて高い水準にあることを示すものと言えよう。